

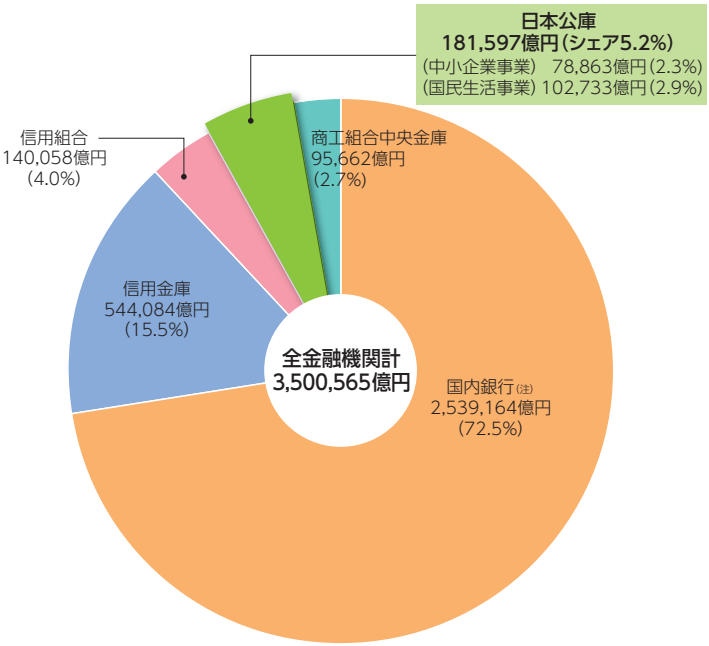
日本政策金融公庫の取組み

日本公庫の融資構造	10
セーフティネット機能の発揮	11
重点事業分野の支援	12
民間金融機関や関係機関との連携	19
全国152支店のネットワークを活用した支援	22
広報誌「日本公庫つなぐ」による情報の提供	22
サステナビリティの取組み	23
令和5年度の業務概況及び決算概要	24
資金調達	26

日本公庫の融資構造

中小企業向けの融資残高における日本公庫（国民生活事業・中小企業事業）の残高シェアは**5.2%**となっています。

中小企業向け 融資残高シェア（令和6年3月末時点）

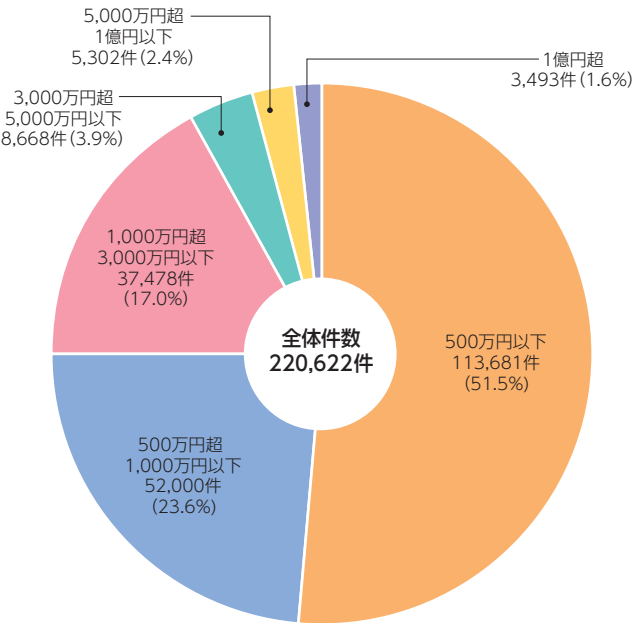


(注) 都市銀行、地方銀行、第二地方銀行、信託銀行の合計
 (出典) 日本銀行「貸出先別貸出金」「現金・預金・貸出金」、全国信用組合中央協会「全国信用組合主要勘定」、日本政策金融公庫「業務統計」、商工組合中央金庫「業務統計」

令和5年度の日本公庫の融資金額別の構成割合を見ると、事業資金の融資件数約22万件のうち、融資金額**500万円以下が52%、3,000万円以下で92%**となっています。

その他、国民一般向けに教育ローンの融資を行っています (年間約9万件)。

令和5年度融資金額別実績 (注)



(注) 国民生活事業・農林水産事業・中小企業事業 (融資) の事業資金の合計

セーフティネット機能の発揮

新型コロナウイルス感染症への対応

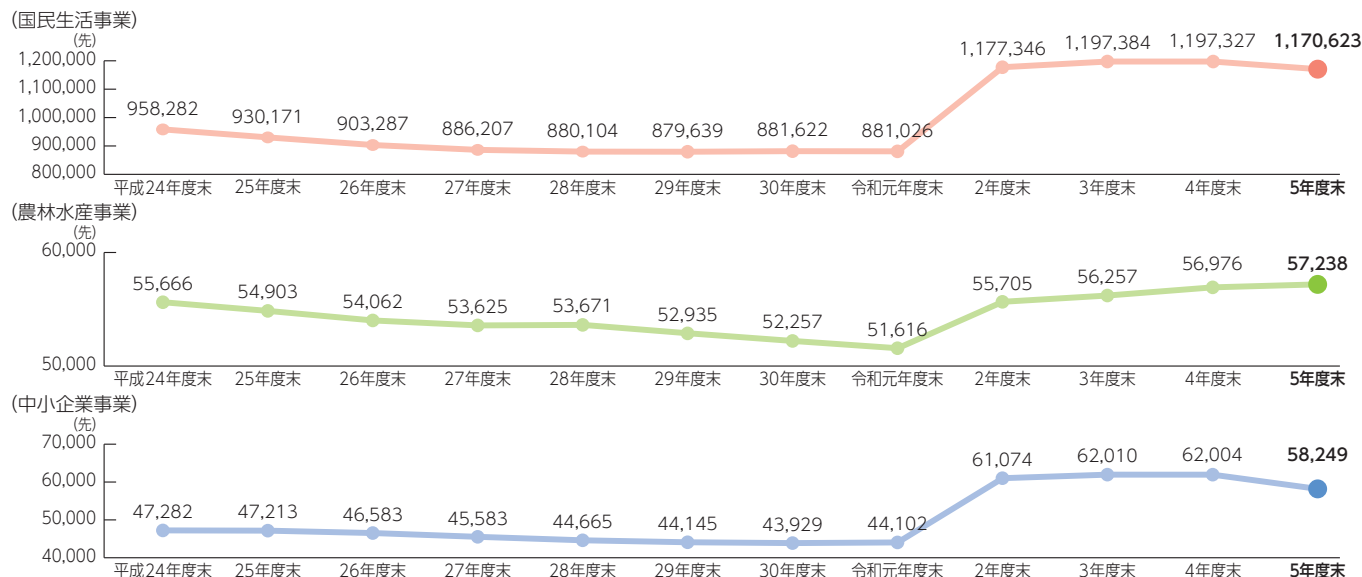
(1) 新型コロナウイルス感染症関連の融資

新型コロナウイルス感染症関連の融資実績は、相談窓口設置日である令和2年1月29日から令和6年3月末時点までの累計で**128万7,001件**、**21兆1,862億円**となりました。

(2) 取引先数の推移

新型コロナウイルス感染症が発生する前まで、日本公庫の取引先数は減少傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症への対応としてこれまでにない膨大な融資のご相談に対応した結果、令和5年度末の取引先数は令和元年度末と比べ、国民生活事業で**約29万先**、農林水産事業で**約6千先**、中小企業事業で**約1万4千先**の増加となりました。

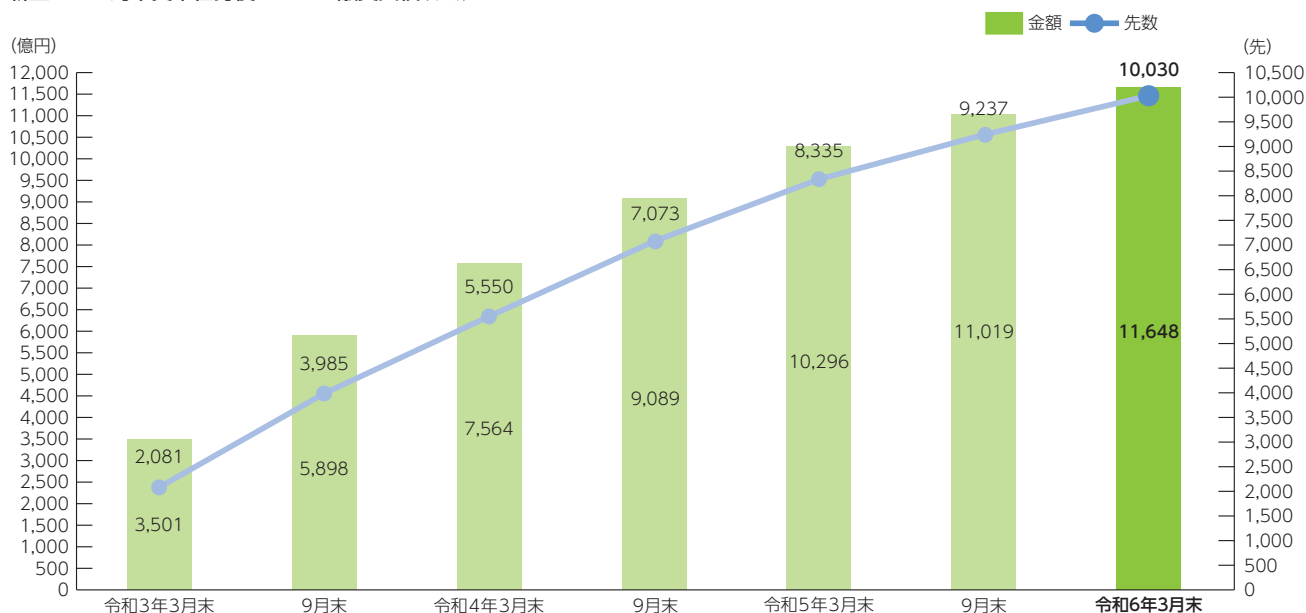
取引先数の推移



(3) 新型コロナ対策資本金劣後ローン

新型コロナウイルス感染症により深刻な影響を受けている経済環境下において、関係機関の支援を受けて事業の発展・継続を図る方などを対象に、財務体質強化を図るための資金を供給する「新型コロナウイルス感染症対策挑戦支援資本強化特別貸付(新型コロナ対策資本金劣後ローン)」の取扱いを令和2年8月から開始しました。令和6年3月末時点での融資実績は、**1万30先**、**1兆1,648億円**となりました。

新型コロナ対策資本金劣後ローンの融資実績(累計)



令和6年能登半島地震への対応

令和6年1月4日付で「令和6年能登半島地震による災害に関する特別相談窓口」を設置し、被害を受けた中小企業・小規模事業者や農林漁業者等の皆さまからのご融資やご返済に関する相談に迅速かつきめ細かく対応しています。また、中小企業・小規模事業者向けに「令和6年能登半島地震特別貸付」、農林漁業者等向けに「金利負担軽減等の特例措置」等を実施し、被害を受けた皆さまを支援しています。

令和6年能登半島地震関連の融資実績

令和5年度	
件数	金額
357件	39億円

セーフティネット関連融資^(注)実績

東日本大震災や令和6年能登半島地震、台風その他の自然災害のほか、国際的な金融不安、経済収縮による悪影響に伴い資金繰りに支障をきたしている方々に対する、セーフティネット関連の令和5年度の融資実績は、**11万6,738件、1兆7,663億円**となりました。

(注)「セーフティネット関連融資」とは新型コロナウイルス感染症特別貸付、災害復旧貸付、東日本大震災復興特別貸付、経営環境変化対応資金、金融環境変化対応資金、農林漁業セーフティネット資金等が含まれます。

重点事業分野の支援

(1)創業・スタートアップ・新事業支援

①創業融資実績

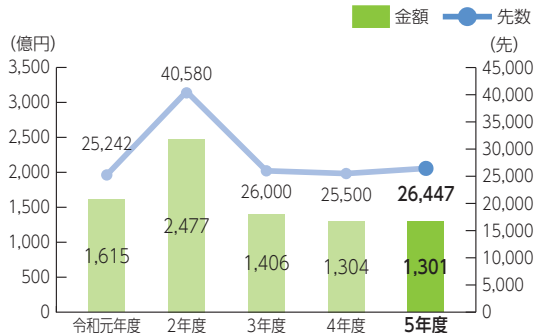
令和5年度の創業前及び創業後1年以内の企業に対する融資実績は、**2万6,447先(前年度比104%)、1,301億円(同100%)**となりました。

女性・若者・シニア起業家への創業融資実績

	令和3年度	4年度	5年度	前年度比
女性層	6,077先	6,367先	6,631先	104%
若年層 (35歳未満)	7,889先	7,368先	7,368先	100%
シニア層 (55歳以上)	2,509先	2,386先	2,521先	106%

(注)女性のシニア層及び若年層は、女性層ともう一方の層で重複して集計しています。

創業前及び創業後1年以内の企業に対する融資実績



②「新事業育成資金^(注1)」及び「スタートアップ支援資金^(注2)」の融資実績

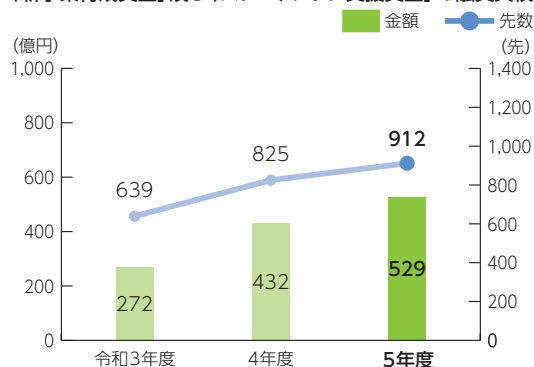
令和5年度の「新事業育成資金」及び「スタートアップ支援資金」の融資実績^(注3)は、**912先(前年度比111%)、529億円(同122%)**となりました。

(注1)高い成長性が見込まれる新たな事業に取り組む中小企業者を支援する特別貸付制度です。

(注2)我が国の経済成長及び社会課題の解決を先導することが見込まれるスタートアップの成長を支援する特別貸付制度です。

(注3)融資実績には、挑戦支援資本強化特別貸付を含みます。

「新事業育成資金」及び「スタートアップ支援資金」の融資実績



③新株予約権付融資の実績

「新事業育成資金」及び「スタートアップ支援資金」には、株式公開を目指すスタートアップなどを対象として、企業が新たに発行する新株予約権を日本公庫中小企業事業が取得し、必要な資金を供給する「新株予約権付融資」があります。

同制度の令和5年度の融資実績は、**75先(前年度比109%)**、**133億円(同177%)**となりました。

④「資本性ローン(新事業型)」の融資実績

令和5年度の「資本性ローン(新事業型)」の融資実績は、**43先(前年度比187%)**、**63億円(同300%)**となりました。

⑤地域のスタートアップ支援機関との連携

地域のスタートアップ支援機関(民間金融機関、ベンチャーキャピタル、大学など)と連携して、地域のスタートアップ等によるプレゼンテーションイベントを開催し、スタートアップの発掘、支援に取り組んでいます。

⑥「高校生ビジネスプラン・グランプリ」の開催

日本公庫では、ビジネスプランを作成する過程を通じて、自ら未来を切り拓いていける力を養うことを目的として、平成25年度から「高校生ビジネスプラン・グランプリ」を開催しています。

「第11回 高校生ビジネスプラン・グランプリ」は、505校、5,014件の応募がありました。全国の創業支援センターが中心となって472校の学校に出張授業を実施し、ビジネスプランの作成サポートを実施しました。

令和6年1月に行われた最終審査会ではファイナリスト10組による白熱したプレゼンテーションが繰り広げられました。田園調布学園高等部の中村美月さんの「世界の女性を幸せにする『テック・ドミトリー』」がグランプリを獲得し、多くのメディアからも注目されました。また、ビジネスプランの発表に臨む高校生に対して、第10回に引き続き、岸田内閣総理大臣からビデオメッセージが寄せられました。

〈第12回 高校生ビジネスプラン・グランプリ〉

令和6年8月20日～9月25日 応募受付期間

令和6年11月下旬 ファイナリスト10組(最終審査会参加者)発表

令和7年1月12日 最終審査会・表彰式の開催

詳しくは日本公庫ホームページをご覧ください。

<https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/>



高校生ビジネスプラン・グランプリFacebookページでは最新情報を随時更新しています。

<https://www.facebook.com/grandprix.jfc/>



高校生ビジネスプラン・グランプリInstagramページでは最新情報を随時更新しています。

https://www.instagram.com/grandprix_kouko/



「新事業育成資金」及び「スタートアップ支援資金」のうち、新株予約権付融資の実績

	令和3年度	4年度	5年度	前年度比
先数	41先	69先	75先	109%
金額	35億円	75億円	133億円	177%

「資本性ローン(新事業型)」の融資実績

	令和3年度	4年度	5年度	前年度比
先数	24先	23先	43先	187%
金額	29億円	21億円	63億円	300%



第11回グランプリを受賞した田園調布学園高等部の中村美月さん



最終審査会のプレゼンテーション

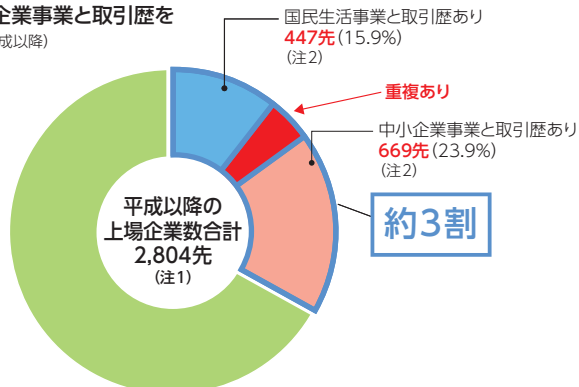


岸田内閣総理大臣からのビデオメッセージ

日本公庫との取引歴を有する上場企業

平成元年以降（1989年～）に上場した企業のうち、国民生活事業又は中小企業事業との取引を経て株式公開を果たした企業はそれぞれ計447先、計669先、両事業合計975先（重複除く）で、全体の約3割を占めています。

国民生活事業・中小企業事業と取引歴を有する上場企業数（平成以降）



(注1) 平成元年以降に各市場に上場した企業のうち、令和6年3月末時点で株式を公開している企業の総数（日本公庫調べ）。
(注2) (注1)のうち、国民生活事業又は中小企業事業と取引があったことを確認できたもの。

(2) 事業再生支援

令和5年度の再生支援関連の融資実績は、「企業再生貸付」については**619先（前年度比138%）、475億円（同118%）**となり、「資本性ローン（再生型）」については、**50先（同238%）、42億円（同150%）**となりました。また、再生支援関連の金融支援実績は、**202先（同149%）**となりました。

再生支援関連の融資実績

		令和3年度	4年度	5年度	前年度比
企業再生貸付	先数	308先	450先	619先	138%
	金額	302億円	401億円	475億円	118%
うち資本性ローン（再生型）	先数	17先	21先	50先	238%
	金額	22億円	28億円	42億円	150%

再生支援関連の金融支援実績

		令和3年度	4年度	5年度	前年度比
DDS、DES等の 抜本的な金融支援手法 ^(注)	先数	114先	136先	202先	149%

(注) DDS、DESのほか、債権の不等価譲渡、第二会社方式、債権放棄による実績。当該期間に日本公庫が同意した先数を集計したものです。

- ・**DDS（デット・デット・スワップ）**：既存債務の一部を劣後債務に転換する金融手法。
- ・**DES（デット・エクイティ・スワップ）**：既存債務の一部を株式化することによって、財務体質の改善を図る金融手法。
- ・**債権の不等価譲渡**：債権者が債権を地域再生ファンド等へ額面より低い価格（時価）で譲渡する金融手法。
- ・**第二会社方式**：収益性のある事業を会社分割又は事業譲渡によって切り離して他の事業者等に承継させ、過剰債務部分は採算事業とともに元の会社に残して特別清算等の法的整理によって債務免除を受ける金融手法。
- ・**債権放棄**：債権者が債権の一部を放棄することによって、再生企業のキャッシュフロー及び財務内容を改善させる金融手法。

(3)事業承継支援

令和5年度の事業承継関連の融資実績は、**2,790件(前年度比107%)、913億円(同108%)**となりました。

中小企業・小規模事業者の経営者の高齢化が進む中、企業が培ってきた技術・ノウハウ等の貴重な経営資源が円滑に引き継がれるよう、事業承継に関する多様な資金需要に対応しています。

事業承継関連の融資実績

	平成26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
件数	176件	707件	1,492件	2,467件	5,593件	9,047件	1,442件	2,380件	2,610件	2,790件
金額	119億円	186億円	296億円	424億円	882億円	1,503億円	478億円	766億円	842億円	913億円

- (注) 1.平成29年4月からは事業承継前の準備資金が、令和2年度からは生活衛生関係営業を営む者が対象となるなど、幅広い資金需要に対応するため、融資対象を拡充しています。
 2.上の表には平成27年2月に創設された新事業活動促進資金(事業承継関連*)の実績を含んでいます。※平成29年に事業承継・集約・活性化支援資金に統合。
 3.平成30年度から、事業承継・集約・活性化支援資金等以外で、事業承継に必要な資金を用途とする貸付(認定貸付)を集計対象に追加しています。

「経営者の意識喚起」の取組み事例

第三者承継事例集「ギフトvol.3」



日本公庫の「事業承継マッチング支援」や他機関の支援施策を利用して、第三者承継を実現した先代経営者と現経営者の想いや取組みを紹介する冊子
(令和4年7月発行)

「みらいへのバトン」



お客さまが事業承継に関する自己診断を行うとともに、自社の事業承継に係る課題と進むべき方向性を公庫職員と共有するための提供用冊子
(令和3年4月改訂)



事業承継セミナー



事業承継の重要性、持続的な経営を行っていくための承継ノウハウの習得を目的とした経営者向けセミナー
(令和4年1月開催)

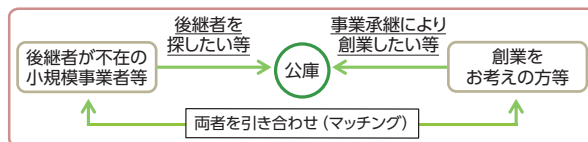
事業承継マッチング支援

「事業承継マッチング支援」は、後継者不在の小規模事業者等と創業希望者等を引き合わせ、第三者による事業承継を支援する取組みです。

事業承継マッチング支援の令和5年度までの累計実績は、申込が13,518件、引き合わせが1,349件となり、168件が成約に至りました。

このほか、令和5年度は、後継者不在企業のマッチングを一層推進するため、全国15ヵ所にてオープンネーム(実名)で後継者の公募を行う「事業承継マッチングイベント」をオンラインで開催しました。同イベントにおいては、事業譲渡を希望する61社の事業者が、延べ1,974名の参加者(事業の譲受に関心のある方や事業承継を支援する方など)に対して事業内容を紹介し、後継者を公募しました。

なお、令和6年度においては、同イベントを13ヵ所で開催し、令和7年度までに全都道府県で開催することを予定しています。



●事業承継マッチング支援実績

取組実績	譲渡希望	譲受希望
申込登録件数	4,216件	9,302件(2,187件)
引き合わせ件数	1,349件	
成約件数	168件	

(注) 事業承継マッチング支援実績は、平成31年4月から令和6年3月までの累計実績です。また、申込登録件数の()内は、創業希望者の登録件数です。

●事業承継マッチングイベントの様子



譲渡希望先の事業紹介(宮城県)

事業承継マッチング支援については、日本公庫ホームページでもご覧いただけます。



事業承継マッチング支援の成約事例

譲渡側は、静岡県で調剤薬局を経営する株式会社イシヅ(代表者(当時)、石津氏)。後継者が不在で、日本公庫の「事業承継マッチング支援」に登録。

譲受側の小林氏は、神奈川県出身の薬剤師。大手調剤薬局で勤務していたが、地域に根差した薬局を経営したいとの想いから、移住を含めた独立を検討していた。

公庫は、石津氏から事業の譲渡に関する希望をヒアリングし、小林氏を紹介。小林氏は、店舗訪問等を通じて、地域に欠かせない薬局であると確信したことから、パートナーの佐藤氏と移住して「継ぐスタ^(注)」することを決意。令和5年8月、事業譲渡契約を締結した。

(注) 事業を受け継いでスタートする創業形態



譲渡側の石津氏(左)と譲受側の小林氏(中央)及び佐藤氏(右)

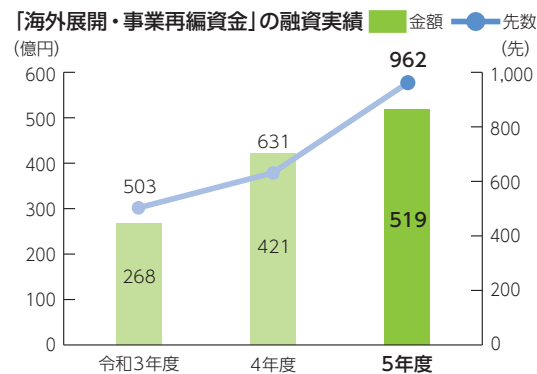
(4) 海外展開支援

①「海外展開・事業再編資金」の融資実績

令和5年度の「海外展開・事業再編資金」の融資実績は、**962先(前年度比152%)、519億円(同123%)**となりました。

そのうち「クロスボーダーローン」^(注)の令和5年度の融資実績は**93先、68億円**となりました。令和3年1月の制度開始以来の累計実績(令和6年3月末まで)は**298先、209億円**となっています。

(注)経済の構造的変化等に適応するために、国内親会社(中小企業者等)と共同で経営力向上や経営革新、地域経済の活性化等に取り組む海外現地法人に対して、日本公庫が直接融資する制度です。ご利用いただける国・地域は、タイ、ベトナム、香港、シンガポール又はフィリピンとなっています。



「海外展開・事業再編資金」の国・地域別実績内訳

	令和3年度		4年度		5年度		
	先数	割合	先数	割合	先数	割合	前年度比
中国(香港含む)	136先	27%	181先	29%	273先	28%	151%
ASEAN	211先	42%	234先	37%	330先	34%	141%
ベトナム	85先	17%	78先	12%	104先	11%	133%
タイ	80先	16%	71先	11%	93先	10%	131%
フィリピン	13先	3%	24先	4%	35先	4%	146%
マレーシア	9先	2%	22先	3%	22先	2%	100%
その他ASEAN	24先	5%	39先	6%	76先	8%	195%
その他	156先	31%	216先	34%	359先	37%	166%
合計	503先	100%	631先	100%	962先	100%	152%

②スタンバイ・クレジット制度^(注)の利用実績

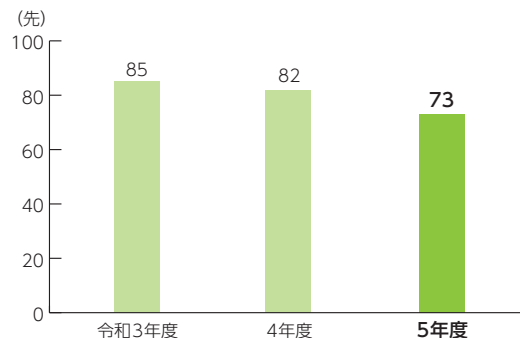
令和5年度は、タイ、中国、韓国、インドネシア、台湾、フィリピン及びベトナムの提携金融機関に対して信用状を発行し、その利用実績は**73先**となりました。平成24年度の制度開始以来の累計実績(令和6年3月末まで)は**960先**となっています。

令和6年3月末時点で提携金融機関は15行となっています。

また、より多くの中小企業者の皆さまが本制度を利用できるよう、平成25年度から全国各地の地域金融機関と連携したスキームを構築しています。令和6年3月末時点で全国62の地域金融機関と連携しており、制度開始以降延べ**62先(令和5年度4先)**に対して、本連携スキームによる信用状を発行しました。

(注)国内親会社(中小企業者等)と共同で経営力向上や経営革新、地域経済の活性化等に取り組む海外現地法人等が、日本公庫と提携する金融機関から現地流通通貨建て長期資金の借入を行う際、その債務を保証するために公庫がスタンバイ・クレジット(信用状)を発行することで、海外での円滑な資金調達を支援するものです。

スタンバイ・クレジット制度の利用実績



③トライアル輸出支援事業の実績

取引のあるお客さまへの経営支援サービスの一環として、農林水産事業では平成25年度から、国民生活事業では令和4年度からそれぞれ開始した事業で、輸出ノウハウを持つ貿易商社と連携し、輸出に初めて取り組むお客さまをサポートしています。

令和5年度のトライアル輸出支援事業は、輸出に意欲のある小規模事業者や農林漁業者、食品製造業者に対して、貿易商社と連携し、**95件**の試験的な輸出(トライアル輸出)を支援しました。

	令和3年度	4年度	5年度
支援件数 ^(注)	31件	75件	95件

(注)令和3年度の支援件数は農林水産事業のみの件数。令和4年度からの支援件数は、国民生活事業、農林水産事業の合算の件数。

④ホーチミン駐在員事務所の新設

令和5年11月、ASEAN地域での更なる海外展開支援・情報収集の強化を目的に、ベトナム(ホーチミン市)に、ホーチミン駐在員事務所を開所しました。これにより、日本公庫の海外駐在員事務所は、上海(中国)、バンコク(タイ)、ホーチミン(ベトナム)の3拠点となりました。

また、令和6年1月、ホーチミン市内にて開所式を開催し、お取引先現地法人、在ベトナム日本国大使館等日系関係機関及び日系金融機関から約150名が参加しました。ホーチミン駐在員事務所の開所を広く周知するとともに、参加者同士の交流の機会を提供することができました。



ホーチミン駐在員事務所
入居ビル



開所式(写真撮影)の様子



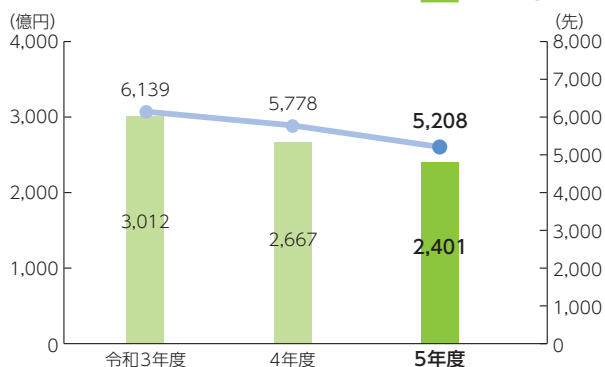
開所式(講演会)の様子

(5)農林水産業の持続可能な成長への支援

①農業の担い手(法人・大規模家族経営や農業参入)を支援

令和5年度の「農業経営基盤強化資金」(略称:スーパーL資金)の融資実績は、**5,208先(前年度比90%)、2,401億円(同90%)**となりました。

「スーパーL資金」の融資実績



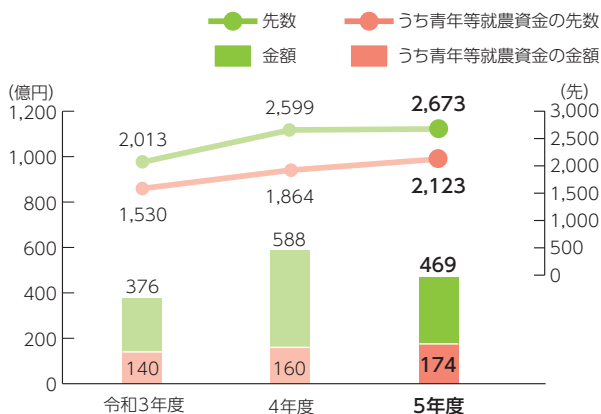
②新規就農や農業参入の取組みを支援

令和5年度の新規就農、農業参入関連の融資実績は、**2,673先(前年度比103%)、469億円(同80%)**となりました。

平成26年度から取扱いを開始した「青年等就農資金^(注)」の融資実績は、**2,123先(前年度比114%)、174億円(同109%)**となりました。

(注)新たに農業経営を営もうとする青年等であって、市町村から青年等就農計画の認定を受けた認定新規就農者の方を支援する資金です。

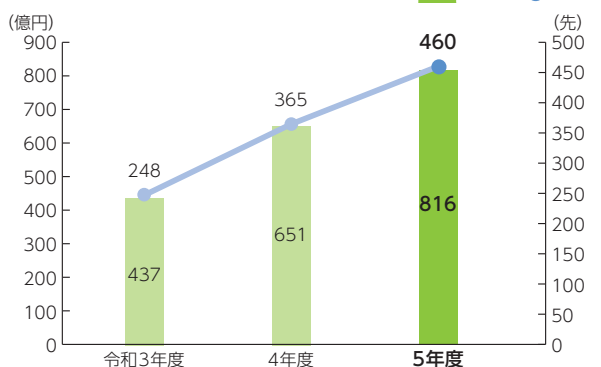
新規就農、農業参入関連の融資実績



③輸出の取組みを支援

令和5年度の「輸出により経営改善に取り組む方」への融資実績は、**460先(前年度比126%)、816億円(同125%)**となりました。

輸出に取り組む方への融資実績

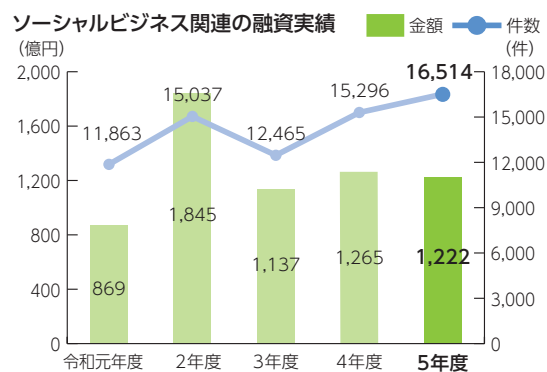


(6) ソーシャルビジネス^(注)支援

① ソーシャルビジネス関連の融資実績

令和5年度のソーシャルビジネス関連の融資実績は、**1万6,514件**
(前年度比108%)、**1,222億円**(同97%)となりました。

(注) 高齢者や障がい者の介護・福祉、子育て支援、地域活性化、環境保護など、地域や社会が抱える課題の解決に取り組む事業をいいます。



② Webページ「ソーシャルビジネス情報局」による情報発信

令和5年7月に「ソーシャルビジネス情報局」を開設し、地域・社会の課題解決のため、ソーシャルビジネスに取り組む方々へのインタビューや支援事例などを紹介しています。



詳細はこちら



③ 「ビジネスプラン見える化BOOK」による事業計画策定の支援

ソーシャルビジネスの事業計画策定を支援するため、「ビジネスプラン見える化BOOK」(以下、「見える化BOOK」)をホームページで公開しています。

「見える化BOOK」は、事業計画に関わる6つの要素(組織使命・現状把握・実現仮説・成果目標・財源基盤・組織基盤)を整理できるワークブックです。ソーシャルビジネスの担い手の皆さまが事業計画を策定する際にご活用いただけます。



詳細はこちら



民間金融機関や関係機関との連携

日本公庫は、民間金融機関や関係機関と連携してお客さまに多様なサービスをご提供しています。「地方版総合戦略」への積極的な参画のほか、地域やお客さまが抱える課題の解決に向けた取組みの推進を通じて、地域の活性化に取り組んでいます。

(1) 民間金融機関連携の深化

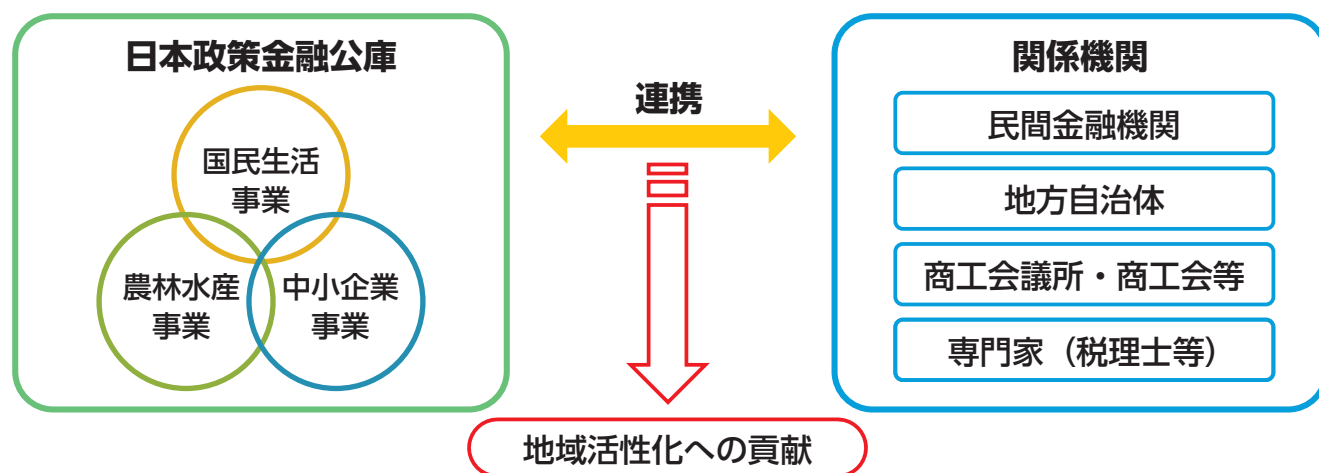
- 民間金融機関の補完を旨としつつ、中小企業・小規模事業者、農林漁業者等のお客さまにさまざまな支援を行っています。民間金融機関と連携して、それぞれの強みやノウハウを組み合わせた多様なサービスをご提供することにより、お客さまの利便性向上に努めております。

(2) 関係機関をつなぐ役割の発揮

- 地域の関係機関と共に、地域やお客さまが抱える課題の解決に向けた取組みを推進しています。

(3) 地方自治体との連携の強化

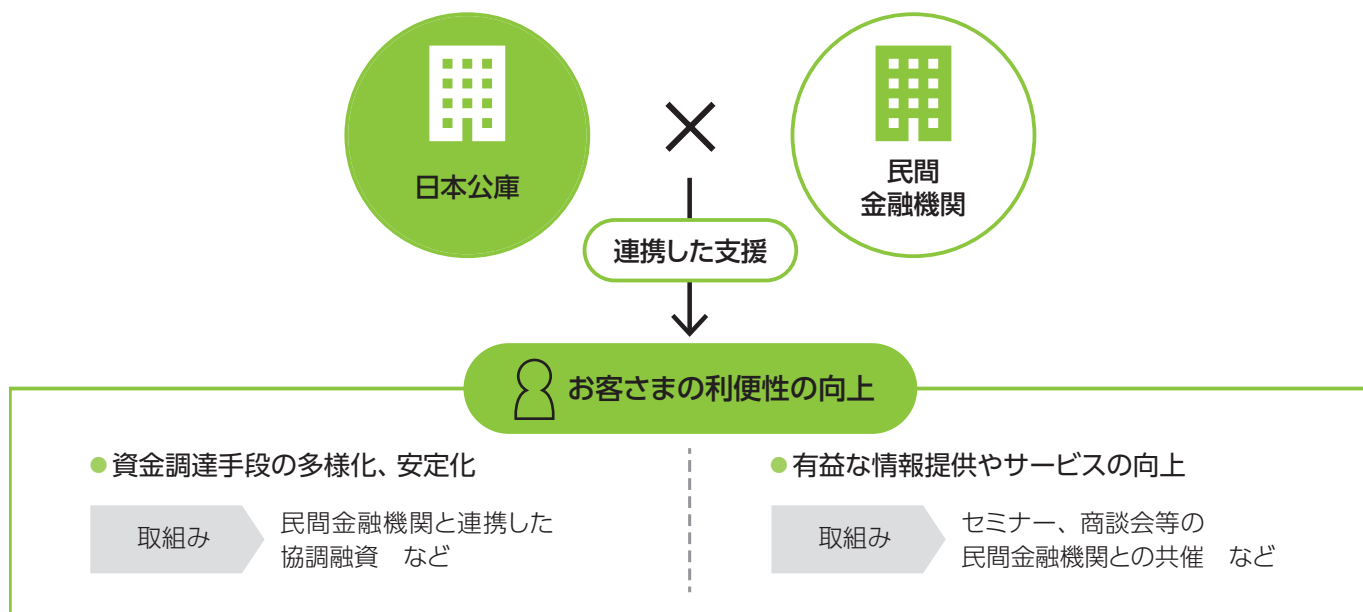
- 「地方版総合戦略」の各種施策への積極的な関与や地方自治体との意見交換等を通じて、地方自治体との連携強化に取り組んでいます。



民間金融機関連携の深化

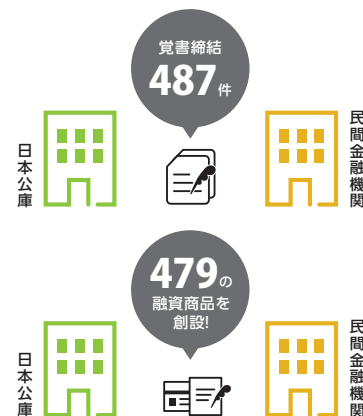
(1) 民間金融機関との連携の目的

日本公庫は、民間金融機関の補完を旨としつつ、中小企業・小規模事業者、農林漁業者等のお客さまにさまざまな支援を行っています。民間金融機関と連携して、それぞれの強みやノウハウを組み合わせた多様なサービスをご提供することにより、お客さまの利便性向上に努めております。



(2) 業務連携・協力にかかる覚書締結状況

これまで多くの民間金融機関との業務連携を進めており、**令和6年3月末時点で、487機関**と業務連携・協力にかかる覚書を締結しています。



(3) 協調融資商品の創設実績

平成26年度から連携の実効性を高めるため民間金融機関と連携・協調して融資するスキーム作りに取り組んでおり、協調融資スキーム^(注)を構築した民間金融機関数は、**令和6年3月末時点で、436機関**にのぼります。協調融資スキームの中には、民間金融機関と連携し、協調融資商品を創設して事業者を支援しているものもあり、**令和6年3月末時点で、309機関と479商品**を創設しています。

(注) 協調融資として取り扱う案件の具体的な紹介ルールの取り決めがなされているものです。

(4) 協調融資^(注)実績

令和5年度の民間金融機関との協調融資実績は、**3万2,594件(前年度比109%)、1兆2,406億円(同98%)**となりました。

(注) 同一目的の資金計画に対し、日本公庫と民間金融機関が協議を経たうえで、融資(保証)を実行又は決定したものです(公庫で集計したもの。両者の融資実行・決定時期が異なる場合も含みます)。

協調融資実績

	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	前年度比
件数	28,736件	24,467件	25,259件	29,894件	32,594件	109%
金額	12,556億円	16,847億円	12,527億円	12,645億円	12,406億円	98%
融資単価	4,369万円	6,885万円	4,959万円	4,229万円	3,806万円	90%

(5) 日本公庫から民間金融機関へのお客さま紹介実績

お客さまの資金ニーズの多様化に対応するとともに、お客さまの資金調達の選択肢を増やすことなどを目的に、日本公庫から民間金融機関へお客さまを紹介する取組みを実施しています。

令和5年度の**公庫から民間金融機関へのお客さま紹介は7,943件**となりました。

関係機関をつなぐ役割の発揮

- お客さまに対するコンサルティング機能の強化の観点から、地域の関係機関と連携し、セミナーや勉強会などを積極的に開催しています。
- 政策金融機関として地域の関係機関を「つなぐ」役割を発揮し、お客さまや地域が抱える課題の解決に貢献するため、令和5年度は東京・広島・青森の3カ所で地域の金融機関、支援団体、地元企業・団体とともに「地域経済活性化シンポジウム」を開催しました。

東京	◆開催日程：令和5年7月18日 ◆開催場所：日経ホール(千代田区) ◆テーマ：想いを未来につなぐ事業承継 ◆参加者数：会場61名、ライブ配信379名
広島	◆開催日程：令和5年9月7日 ◆開催場所：JMSアステールプラザ(広島市) ◆テーマ：新たな発想で世の中を変える ～スタートアップ企業がもたらす活力～ ◆参加者数：会場79名、ライブ配信225名
青森	◆開催日程：令和5年10月31日 ◆開催場所：ホテル青森(青森市) ◆テーマ：地域発！世界に届ける日本の食 ◆参加者数：会場119名、ライブ配信194名



東京会場の様子



広島会場の様子

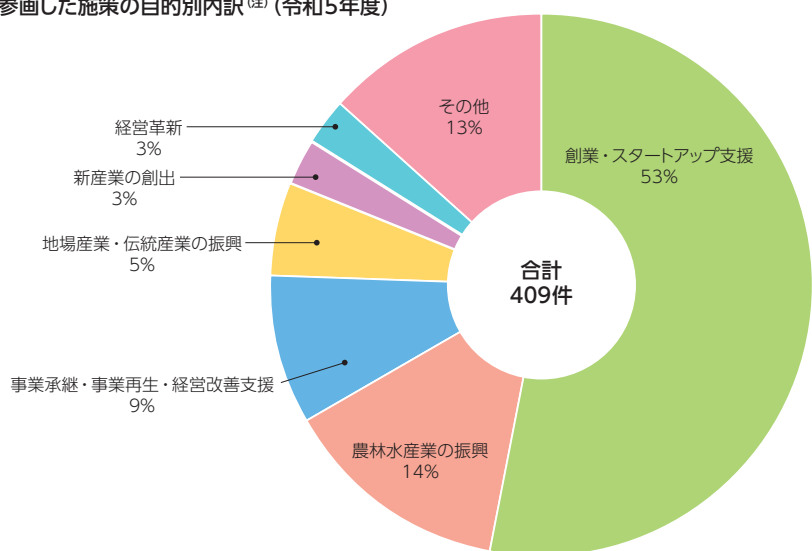


青森会場の様子

地方自治体との連携の強化

- 全国152支店において、地域の実状やニーズをとらえ、地域が抱える課題に、きめ細かに対応しています。
- 令和5年度は、「地方版総合戦略」に掲げる各種施策のうち、創業・スタートアップ支援や農林水産業の振興などの分野において、**409件**の個別施策に参画しました。また、地方自治体の首長等との意見交換などを通じて、地域が抱える課題を理解するとともに、解決に向けた取組みを推進することで、連携をさらに強化しました。

参画した施策の目的別内訳^(注) (令和5年度)



全国152支店のネットワークを活用した支援

多様化するお客さまのニーズに対応するため、全国152支店のネットワークを活用し、ビジネスチャンスの拡大に向けたお客さまに対するハンズオンでのマッチング支援や商談会・セミナーの開催などに取り組んでいます。

- 令和5年度は、お客さまの本業支援や地域の活性化に貢献するため、全国各地でマッチングや商談会・セミナーの開催などに取り組みました。
- 「全国オンライン商談会」や「アグリフードEXPO」など、全国規模の商談会の開催に加え、全国の支店においても、遠隔地のお客さま同士を繋ぐオンラインマッチングや地域の特色を活かした商談会・セミナーを開催するなど、お客さまの課題解決をサポートしています。
- インターネットビジネスマッチングサイトでは、販売先や仕入先の拡大などのお客さま同士のニーズを橋渡しする「場」を提供しています。

日本政策金融公庫インターネットビジネスマッチング
<https://match.jfc.go.jp/>



第4回「全国オンライン商談会」

- ポストコロナにおいて、マッチングニーズが多様化するお客さまのビジネスチャンス拡大を支援するため、オンライン形式の商談会を開催しました(令和6年2月13日～19日)(17、18日を除く)。
- 今回は、多様化するお客さまのニーズに幅広く応えるため、海外商談枠を新設したほか、令和6年能登半島地震の影響が大きかった地域(石川県、富山県、福井県、新潟県)からも38社が参加し、販路拡大につながる商談を行ったことで、計840件(前回849件)の商談が実現し、参加企業から高い満足度を得ることができました。



広報誌「日本公庫つなぐ」による情報の提供

日本公庫の機能・役割・取組みを広く知っていただき、「政策」と事業に取り組む方々等とを“繋ぐ”ため、広報誌「日本公庫つなぐ」による情報提供にも取り組んでいます。この「日本公庫つなぐ」では、公庫の取組みのほか、地域や企業の皆さまの取組み等を紹介しています。

詳しくは日本公庫ホームページをご覧ください。

https://www.jfc.go.jp/n/findings/tsunagu_index.html



サステナビリティの取り組み

サステナビリティ基本方針

日本公庫は、業務運営を通じて持続可能な社会の実現に貢献していくためのサステナビリティ基本方針を定めています。

【サステナビリティ基本方針】

当公庫は、政策金融の確かな実施を通じた中小企業・小規模事業者や農林漁業者等への支援、関係機関との連携を通じた地域活性化及び環境に配慮した業務運営に努め、持続可能な社会の実現に貢献する。

◆ 基本的な考え方

業務運営計画の各項目の着実な遂行を通じ、サステナビリティを推進し、SDGsの達成に貢献する。

◆ マテリアリティの特定

- サステナビリティを推進する上で取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を次のとおり設定する。
 - セーフティネット機能を発揮し、お客さまの事業継続を支える
 - 民間金融機関や関係機関と連携し、お客さまと地域の成長を支える
 - 重点事業分野を重点的に支援し、お客さまと我が国の発展を支える
 - 多様な人材が活躍できる職場を作り、働く職員の満足度を高める
- 重要課題（マテリアリティ）に対する取り組み状況については、取締役会に報告し、モニタリングを行うとともに、評価・審査委員会において評価を受け、サステナビリティ推進に向けた取り組みの向上に努める。

◆ 地域社会との協同

サステナビリティの取り組みの重要性をお客さまや関係機関と共有し、地域社会全体でのサステナビリティへの取り組みの進展に貢献する。

◆ 人材育成

全役職員が政策金融を担う者として期待される役割を果たすため、「質の高いお客さまサービスの実現」及び「高度なマネジメント能力・専門性の養成」を目的とした職員教育の充実を図る。

◆ 社内環境整備

女性のキャリア開発を推進するとともに、性別を問わずワークライフ・マネジメントの実践が可能な職場づくりに取り組む。

◆ 全役職員への意識醸成

全役職員が本方針に基づくサステナビリティの推進に積極的に取り組むため、全役職員のサステナビリティに対する意識醸成を図る。

日本公庫の取り組みを通じたSDGsへの貢献

政策金融機関として、国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）の達成に貢献できるよう取り組みを進めてまいります。

【日本公庫の取り組みを通じたSDGsへの貢献（SDGsマッピング）】

 1 貧困をなくそう	【事業運営】 ・ひとり親家庭等への支援を通じた教育にかかる経済的負担の軽減	 2 飢餓をゼロに	【事業運営】 ・農林水産業の持続可能な成長への支援 ・新たに農業経営を開始する者への支援 ・農林漁業者との連携強化に取り組む食品関係企業等の関連企業の支援	 3 すべての人に健康と福祉を	【事業運営】 ・医療体制整備への支援 ・健康経営に取り組むお客さまへの支援
 4 質の高い教育をみんなに	【事業運営】 ・高校生ビジネスプラン・グランプリの開催 ・教育の機会均等への貢献 ・大学への出講等による研究成果の発信 【組織運営】 ・職員の専門性の強化	 5 ジェンダー平等を實現しよう	【組織運営】 ・女性管理職の積極的登用 ・男性の家事、育児、介護への参画促進	 6 安全な水とトイレを世界中に	【事業運営】 ・森林の有する多面的機能（水源の涵養）維持への支援
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	【事業運営】 ・脱炭素化などの環境、エネルギー対策への支援 ・低炭素投資促進法に基づく特定事業に係るツーステップ・ローン ・産業競争力強化法に基づく事業適応（脱炭素化）に係るツーステップ・ローン	 8 働きがいをも経済成長も	【事業運営】 ・セーフティネット機能の発揮 ・危機対応円滑化業務の的確な実施 ・信用補完の着実な実施 ・創業・スタートアップ・新事業支援 ・事業再生支援 ・事業継続支援 ・ソーシャルビジネス支援 【組織運営】 ・デジタル化・DXの推進 ・テレワークなどの柔軟な働き方の一層の推進 ・ワークライフ・マネジメント（WLM）の実践		
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	【事業運営】 ・産業競争力強化法に基づく事業再編及び事業適応等に係るツーステップ・ローン ・高度な情報通信システムの開発供給及び導入に係るツーステップ・ローン ・特定重要物資の安定供給確保に係るツーステップ・ローン	 11 住み続けられるまちづくりを	【事業運営】 ・地域活性化への貢献	 12 つくると消費する責任	【組織運営】 ・環境に配慮した取り組みの実施
 10 人や国の不平等をなくそう	【組織運営】 ・ダイバーシティの推進 ・障害者雇用の着実な実施	 13 気候変動に具体的な対策を	【組織運営】 ・危機管理態勢の強化 ・BCPの強化	 14 海の豊かさを守ろう	【事業運営】 ・林業の持続的かつ健全な発展への支援 ・木材関連事業者の国産材の利用促進に資する取組み
 16 平和と公正をすべての人に	【組織運営】 ・コンプライアンス意識の強化・定着化 ・反社会的勢力の排除態勢の強化 ・外部有識者で構成される評価・審査委員会の設置	 15 陸の豊かさを保とう	【事業運営】 ・持続性のある水産業の成長産業化への支援	 17 パートナリシップで目標を達成しよう	【事業運営】 ・協調融資や証券化を通じた民間金融機関等との連携 ・地方版総合戦略への積極的な参画などによる地方自治体との連携 ・商工会議所・商工会等の関係機関との連携

詳しくは日本公庫ホームページをご覧ください。

<https://www.jfc.go.jp/n/company/sdgs/index.html>



令和5年度の業務概況及び決算概要

令和5年度の業務概況

我が国経済は、コロナ禍の3年間を乗り越え、改善しつつあります。30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業の高い投資意欲など、経済には前向きな動きが見られ、デフレから脱却し、経済の新たなステージに移行する千載一遇のチャンスを迎えています。

他方、賃金上昇は輸入価格の上昇を起点とする物価上昇に追い付いていません。個人消費や設備投資は、依然として力強さを欠いています。

このような中、当公庫におきましては、政策金融機関として「政策」と事業者・地域を「繋ぎ」、「支える」という使命感をもって、セーフティネット機能の発揮、民間金融機関との連携、成長分野等への重点的な支援、お客さまサービスの向上、地域活性化への貢献などに取り組みました。

セーフティネット機能の発揮

コロナ禍の影響が残る中、当公庫における新型コロナウイルス関連の融資実績は、令和2年1月の相談窓口の設置以降、令和6年3月末までに累計で約128万件、約21兆円となりました。また、コロナ禍の影響を受けた中小企業・小規模事業者の財務基盤を強化するため、令和2年8月から取扱いを開始した「新型コロナウイルス感染症対策挑戦支援資本強化特別貸付（新型コロナ対策資本性劣後ローン）」の融資実績は、令和6年3月末までに約1万先、約1兆1千億円となりました。

また、東日本大震災をはじめとする自然災害、感染症の流行、経済情勢等による経営環境の変化の影響を受けた中小企業・小規模事業者や農林漁業者等に対して、資金繰り支援などを行うとともに経営面のアドバイスを行いました。

このうち、令和5年石川県能登地方を震源とする地震、令和5年梅雨前線による大雨及び台風第2号、令和5年6月29日からの大雨、令和5年7月7日からの大雨、令和5年台風第7号、ALPS処理水の処分に伴う経営・輸出等の対策、令和5年台風第13号、令和6年能登半島地震に対しては、新たに特別相談窓口を設置し、被害を受けた中小企業・小規模事業者や農林漁業者等に対して、融資や返済の相談に迅速かつきめ細かく対応しました。

さらに、物価高等により影響を受けた中小企業・小規模事業者や農林漁業者等からの融資や返済に関する相談にも、引き続き迅速かつきめ細かく対応しました。

加えて、信用保証協会による保証が円滑に行われるための信用保険引受や危機対応円滑化業務を実施しました。

民間金融機関との連携

株式会社日本政策金融公庫法（平成19年法律第57号）第1条が規定する民間金融機関の補完を旨としつつ、多くの民間金融機関との連携を進めています。

当期におきましては、これまでの民間金融機関連携の取組みを継続するとともに、役員レベルを含めた組織的な対話の促進及び連携状況の経営層への浸透に取り組みました。

コロナ禍や物価高等の影響を受けたお客さまへの対応につきましては、民間金融機関との勉強会の実施や資本性劣後ローンに係る協調融資商品の活用などを通じて、引き続き連携を進めました。また、成長分野をはじめとする民間金融機関との協調融資等を継続して推進することにより、中小企業、小規模事業者や農林漁業者の経営改善・事業再生支援に係る連携を一層強化しました。

成長分野等への重点的な支援

日本経済の成長・発展への貢献を念頭に、国の政策に基づき、リスクテイク機能を適切に発揮し、創業・スタートアップ・新事業、事業再生、事業承継、ソーシャルビジネス、海外展開、農林水産業の新たな展開、DX・デジタル化の推進及び脱炭素化などの環境・エネルギー対策等への支援に取り組みました。

なかでも、創業・スタートアップ・新事業においては、民間金融機関やベンチャーキャピタルと連携した金融支援やマッチングイベントの開催などの本業支援、事業承継においては、各地域の関係機関との連携等を通じた事業承継マッチングを含むコンサルティング、海外展開及び農林水産業の新たな展開においては、関係機関と連携した販路開拓支援、資金支援や農林水産物・食品の輸出支援などに取り組みました。

お客さまサービスの向上及び地域活性化への貢献

政策金融の役割を十分に理解し、貸付制度を適切に運用するとともに、お客さまや地域のニーズに合致した有益なサービスの提供やコンサルティング機能の強化などに取り組みました。

また、全国規模でのオンライン商談会や、地域の特色を活かしたセミナー・商談会の開催に加え、全国152支店のネットワークを活用したマッチング支援などに取り組みました。

さらに、第2期「地方版総合戦略」に積極的に関与し、「地域経済活性化シンポジウム」を東京、広島及び青森で開催するなど、地域活性化に向けた取組を実施しました。

これらにより、令和5年度の当公庫全体の融資実績は3兆2,485億円となりました。

令和5年度の当公庫全体の損益の状況につきましては、経常収益は7,493億円、特別損益を含めた当期純損失は823億円となりました。

令和5年度の決算概要

(1)損益の状況

令和5年度(令和6年3月期)決算においては、当期純損失が823億円となり、前期比で1,863億円減少しました。
減少の主な要因は、信用保険等業務勘定において、当期純利益が前期比2,213億円増加したことによるものです。

損益計算書

(単位：億円)

		経常収益		経常費用		経常利益(▲損失)		当期純利益(▲純損失)	
		5/3期	6/3期	5/3期	6/3期	5/3期	6/3期	5/3期	6/3期
株式会社日本政策金融公庫		4,169	7,493	6,857	8,316	▲2,687	▲822	▲2,687	▲823
国民生活事業(国民一般向け業務勘定)		1,107	1,321	2,283	3,490	▲1,175	▲2,168	▲1,173	▲2,169
農林水産事業(農林水産業者向け業務勘定)		472	489	472	507	0	▲18	－	▲18
中小企業事業	中小企業者向け融資・証券化支援保証業務勘定	673	793	1,155	632	▲481	161	▲482	160
	中小企業者向け証券化支援買取業務勘定	4	5	4	5	▲0	0	▲0	0
	信用保険等業務勘定	1,796	4,775	2,513	3,278	▲716	1,497	▲716	1,497
危機対応円滑化業務(危機対応円滑化業務勘定)		116	108	430	402	▲314	▲293	▲314	▲293
特定事業等促進円滑化業務(特定事業等促進円滑化業務勘定)		1	2	2	2	▲0	▲0	▲0	▲0

(2)資産の状況

資産の部合計は、33兆5,189億円となり、その大部分は貸出金です。
貸出金残高は、前期末比で2兆784億円減少し、25兆6,611億円となりました。
純資産の部合計は、政府からの出資金1,189億円の受入れ及び当期純損失823億円の計上等により、15兆3,232億円となりました。

貸借対照表

(単位：億円)

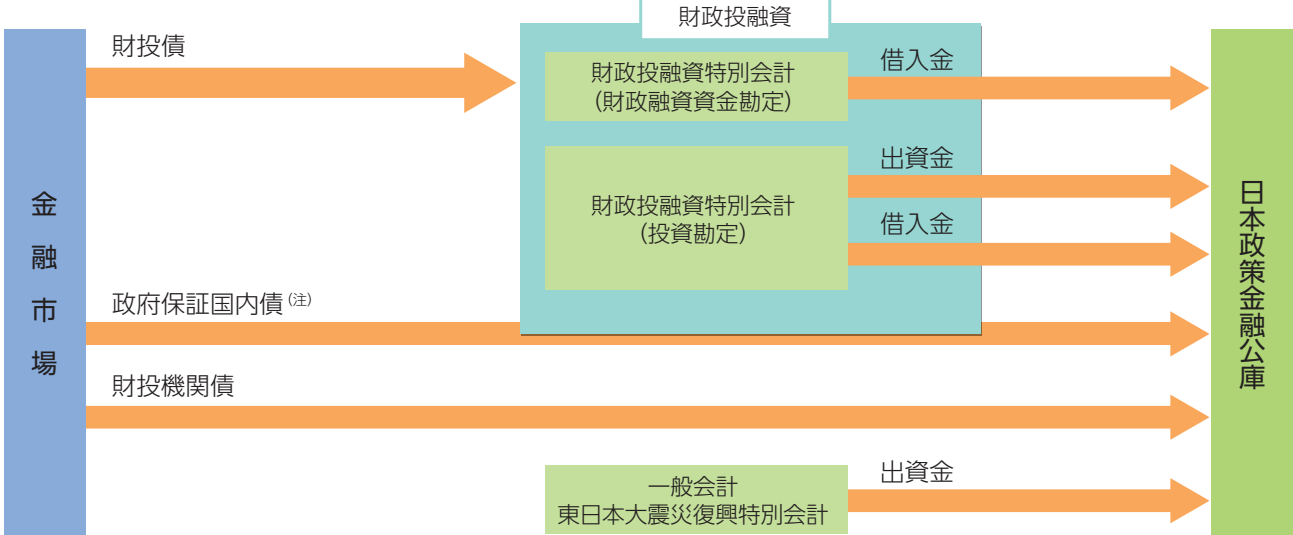
資産の部			負債及び純資産の部		
科 目	金 額		科 目	金 額	
	5/3期末	6/3期末		5/3期末	6/3期末
現金預け金	97,280	86,419	借入金	185,191	157,835
有価証券	482	455	社債	9,260	7,209
貸出金	277,396	256,611	寄託金	228	209
その他資産	273	338	保険契約準備金	17,872	14,829
有形固定資産	1,907	1,901	その他負債	319	264
無形固定資産	249	362	賞与引当金	54	54
支払承諾見返	282	280	役員賞与引当金	0	0
貸倒引当金	▲10,564	▲11,180	退職給付引当金	951	984
			役員退職慰労引当金	0	0
			補償損失引当金	280	288
			支払承諾	282	280
			負債の部合計	214,442	181,957
			資本金	116,961	117,684
			資本剰余金	54,905	54,656
			利益剰余金	▲19,003	▲19,109
			その他有価証券評価差額金	0	1
			純資産の部合計	152,864	153,232
資産の部合計	367,307	335,189	負債及び純資産の部合計	367,307	335,189

資金調達

資金調達の仕組み

日本公庫は、財政融資資金借入金、政府保証国内債、財投機関債、政府出資金等の多様な手段によって資金調達を行っています。

資金調達の仕組み



(注) 政府保証国内債については、年限5年以上の債券が財政投融資に含まれます。

資金調達の内訳

(単位：億円)

	令和5年度予算額	令和5年度実績額	令和6年度予算額
財政融資資金借入金他	60,693	7,513	40,080
政府保証国内債	1,000	—	1,000
政府出資金	1,448	1,189	468
国の制度による調達額 (調達全体に占める構成比)	63,141 (96%)	8,702 (98%)	41,548 (93%)
財投機関債	2,900	200	2,900
調達額合計	66,041	8,902	44,448

(注) 1. 令和5年度の予算額は、補正予算による補正後の予算額です。

2. 「財政融資資金借入金他」とは、財政融資資金借入金、産業投資借入金及び独立行政法人農林漁業信用基金からの寄託金です。

●政府保証国内債

日本公庫は、予算の範囲内で、政府保証付の一般担保付社債を発行しています。

(単位：億円)

年度 年限	令和3年度		4年度		5年度		6年度	
	予算額	実績額	予算額	実績額	予算額	実績額	予算額	実績額
10年	5,000	—	—	—	—	—	—	—
5年未満	4,000	—	1,000	—	1,000	—	1,000	—
短期社債(1年未満)	3,000	—	—	—	—	—	—	—
合計	12,000	—	1,000	—	1,000	—	1,000	—

- (注) 1. 令和6年度予算額については、業務の進捗に応じ、発行を予定しています。
2. 各年度の予算額は、当該年度における政府の保証契約の限度額であり、発行限度額です(短期社債(1年未満)を除く※)。
※短期社債(1年未満)のみ、当該年度における発行残高の限度額です。
3. 令和3年度から5年度において、発行実績はありません。
4. 令和6年度において、令和6年5月末時点での発行実績はありません。

●財投機関債

日本公庫は、予算の範囲内で、一般担保付社債を発行しています。

(単位：億円)

年度 発行額 発行月・年限	令和3年度				4年度				5年度				6年度
	(予算額2,900)				(予算額2,900)				(予算額2,900)				(予算額2,900)
	実績額 500				実績額 209				実績額 200				実績額 0
発行月	5月	8月	11月	3月	5月	8月	11月	3月	5月	8月	11月	3月	5月
5年	—	—	—	100	—	—	—	109	—	—	—	—	—
3年	—	—	—	100	—	—	—	100	—	—	—	100	—
2年	—	—	300	—	—	—	—	—	—	—	—	100	—

- (注) 1. 各年度の予算額は、当該年度における発行限度額です。
2. 令和6年度において、令和6年5月末時点での発行実績はありません。

当公庫の格付(令和6年5月末時点)

格付投資情報センター(R&I)	AA+ (安定的)
ムーディーズ・ジャパン(Moody's)	A1 (安定的)

Memo
